

オムロンスイッチアンドデバイス

倉吉に本社機能移転

事業所人員570人に



10月から本社となったオムロンスイッチアンドデバイス倉吉事業所
=倉吉市巖城

電子部品の大手メーカー、オムロン（本社・京都市）の完全子会社「オムロンスイッチアンドデバイス」は、岡山事業所（岡山市）に置いていた本社機能を倉吉事業所（倉吉市巖城）に移転した。生産拠点も倉吉事業所に集結する計画で、長江社長は「相乗効果を発揮して各事業の成長を図る」と話している。（本高屋修）

同社によると、岡山でのコネクタ製造は既に倉吉へ移転。55人の従業員が倉吉事業所に異動し、派遣社員も65人を受け入れた。鳥取中部地震を機に、岡山へ移したエナジー製品生産事業も本年度内に倉吉に戻す計画で、さらに20人程度を異動させる。一連の移転で倉吉事業所の人員は570人となる。

倉吉への本社機能移転は、各国、地域に向けた製品を地産地消で生産できる体制を目指すオムロングループの計画の一環。生産ラインを集結することで生産性の向上が図られ、スイッチ部品関連などでより電力効率の良い製品開発が期待できるという。移転に伴う工場増設の予定はないが、長江社長は「面積単位での生産力を上げて製品を安定供給し、顧客の期待に応えていく」と話している。

倉吉事業所は倉吉市の誘

吉立石電機」として創立。90年にオムロン倉吉に社名変更。2010年、オムロン出雲（現出雲東郷電機）と合併して本社のスイッチ事業を承継し、オムロンス

った。11月現在、約1000の生産ラインが稼働しており、スイッチ類など2万5千品を多いもので年間600万個製造している。